



平成24年1月11日

報道機関 各位

熊本大学

「月経困難症の予防及び/又は治療薬」の特許取得について

(概要説明)

別紙のとおり、本院産科婦人科片渕秀隆教授、本田律生講師が慶應義塾大学及びリンクジェノミクス株式会社との共同研究において、「月経困難症の予防及び/又は治療薬」を発明し、特許を取得致しましたのでお知らせ致します。本特許取得については、今月長崎市で開催される学会にて発表する予定です。

このことについて、随時取材等を受け付けますので、希望される方は本件お問合せ先までご連絡下さい。

【本件お問い合わせ先】

熊本大学医学部附属病院総務・人事ユニット総務担当

電話：096-373-5904/5907 FAX：096-373-5906

e-mail：iys-somu@jimu.kumamoto-u.ac.jp

「月経困難症の予防及び/又は治療薬」の特許取得について

このたび、2011年3月25日付けにて、「月経困難症の予防及び/又は治療薬」という発明に対する特許を取得いたしました。この成果については、1月21日から22日にかけて長崎市において開催される第33回日本エンドメトリオーシス学会で発表予定です。

特許権者は熊本大学、慶應義塾大学ならびにリンクジェノミクス株式会社であり、本学における発明者は熊本大学大学院生命科学研究部産科婦人科学分野教授片瀧秀隆ならびに熊本大学医学部附属病院講師の本田律生の2名であります。

月経困難症とは、月経期間中に月経に随伴して起こる病的症状をいい、下腹痛、腰痛、腹部膨満感、吐気、頭痛、疲労・脱力感、食欲不振、いらいら、下痢およびゆううつ順に多くみられます。報告によれば、一般女性の67.3%が月経痛に悩まされており、鎮痛剤が有効な女性は26.8%、鎮痛剤を服用しても日常生活に支障をきたす女性は全体の6%で、その3分の1は月経のたびに寝たきり状態になるともいわれており、労働損失や医療経費を含めた社会経済学的損失は年間約1兆円と試算されています。

今回の特許取得に関しては、慶應義塾大学先端科学研究所教授である佐谷秀行先生（前熊本大学大学院腫瘍医学分野教授）の研究室とリンクジェノミクス株式会社との基礎的研究において、抗アレルギー薬あるいは喘息治療薬として20年以上前より使用されてきたトラニラスト（商品名：リザベン）が、子宮内膜腺上皮細胞の間葉細胞への移行（上皮-間葉転換）を抑制するという新たな効果が確認されたことを端緒としています。上皮-間葉転換はがんの転移の際にもみられる現象であり、婦人科良性疾患であり月経困難症の原因疾患として重要なひとつである子宮内膜症の進展においても重要な役割を担っているといわれています。

この基礎的検討の結果を受けて、熊本大学医学部附属病院産科・婦人科において、月経困難症に悩む患者さん10名にトラニラストを6ヶ月間投与する臨床試験を行ったところ、月経時の下腹部痛のスコアが有意に改善するという結果が得られ、副作用も全く認められずトラニラストは月経困難症に有用であると結論づけられました。現在、月経困難症に対しては下表のような治療薬が用いられていますが、トラニラストは卵巣機能に影響を与えない新たな治療薬として期待されます。

	長所	短所
鎮痛剤	即効性がある 経済的負担が少ない	消化器症状 アスピリン喘息患者に使用できない 血小板減少症
GnRH アナログ療法	無月経に伴う月経痛の消失 注射剤であれば月1回の投与でよい	長期間（6カ月以上）の投薬ができない 低エストロゲン症状 骨粗鬆症 経済的負担が大きい
EP 合剤	治療後すぐに妊娠が可能 長期間の服用が可能	体重増加 血栓症の危険性 肝機能障害
ダナゾール	子宮内膜症への直接作用 経済的負担が少ない	体重増加 男性化徴候 (にきび、嘎声など)
漢方療法	薬剤の選択肢が多い 長期間の投薬が可能 副作用が少ない	薬剤選択が難しい 治療効果の個人差が大きい